

実務支援ツールの拡充について

札幌市市有施設における石綿含有建材対策の精度向上に向けて

令和8年度 札幌市アスベスト問題対策会議
(環境局管理担当部)

本提案の流れ

- 01 実務担当者が直面する現状の課題
- 02 解決策①：対策要領の「ビジュアル点検ガイド」作成
- 03 解決策②：工事依頼・発注担当者向けチェックリストの作成

SECTION 01

現状の課題と背景

実務担当者が直面する現状の課題

法令改正や施設の老朽化に伴い安全管理水準が高度化する中、個人の経験だけに頼らない「組織的な対応強化」が必要

① 点検精度の更なる向上の必要性

全庁的な専門知識のさらなる定着と、チェック体制の均一化・高度化

要領の専門性：内容の多さから理解するための心理的ハードルが高い。

時間の制約：学ぶ時間は限られている。

異動による担当者変更：

個人の経験や知識量に依存しない判断基準の統一

⇒建材のわずかな状態変化も確実にとらえ、現場担当者が迷わず迅速に初期対応できる『わかりやすい仕組みづくり』が必要となっている

② 法令改正に伴う安全管理基準の高度化

発注者責任の拡大とアスベストという専門性とのギャップ

市による多重チェックの重要性：

施工業者任せにせず、発注者である市が主体的に安全性を確認・担保する体制が必要

厳格化する法令への対応：

発注者（市）に対し、より高度で厳格な安全管理体制が求められる。

発注（工事依頼）部署での判断：

調査結果や工事計画の妥当性をチェックに専門知識が必要

⇒より安全で適切な工事を実施するため、専門的な法令要件をどの部署でも均一かつ確実に満たせる『全庁的なサポートツール』が必要となっている

SECTION 02

解決策①
対策要領の
「ビジュアル点検ガイド」

ビジュアル点検ガイド（案）

POINT

- ①【確実な判断支援】
視覚的な判定基準（写真・図解中心）
- ②【迅速・的確な対応】
要点を凝縮したコンパクト設計
- ③【事故防止】
「次に取り組むべき行動」の明確化

石綿点検ポケットガイド

現場に携帯！これ1枚で安全に点検完了

1. 出発前の持ち物チェック

- ☐ 本ガイド 兼 施設点検マップ
※図面に赤字で点検箇所が示されたもの
- ☐ 呼吸用保護具（マスク）
※DS2等の粒子捕集効率95%以上
- ☐ デジカメ又は作業用スマホ
- ☐ 懐中電灯・LEDライト
※暗所や裏側の点検用

2. 安全の絶対ルール

⊘絶対に触れない・叩かない

目視と写真撮影のみで点検を行う。

📷離れて撮影する

剥落や飛散の恐れがある場所は、無理に近づかず離れた場所から撮影する。

SOS 1人で悩まない

状態の判定に迷ったら、写真を撮って直ぐに本庁（担当部署）へ相談する。

3. 現場での点検ステップ

① マップで対象場所へ向かう

配管エルゴ、天井、煙突点検口など

② 安全確認・マスク着用

現場に入る前に必ずマスクを正しく装着

③ 目視 & 写真撮影

建材の表面状態を目視し、「全体写真」と「拡大写真」の2枚を必ず撮影する

4. 状態判定クイックガイド

判定区分	現場の見た目とアクション
状態Ⅲ(通常)	変化なし・安定 表面に傷がない。異常なしを記録。
状態Ⅱ(部分損傷)	一部擦れ・ひび割れ 部分的な毛羽立ち。写真撮影し計画補修へ。
状態Ⅰ(著しい損傷)	ポロポロ落ちる・崩れ 【即時対応】部屋を立入禁止し、直ちに環境対策課へ連絡！

※判断に迷う場合は右側の「SOSフロー」へ

5. 迷った時のSOSフロー

- その場での判定を「保留」する。
- 「全体写真」と「拡大写真」を撮影

【別紙】石綿含有建材・劣化度合い ビジュアル判定シート

札幌市市有施設における点検支援ツール（裏面：劣化度合いの判定とSOS手順）

裏面：劣化判定

1. 目視による劣化状態の3段階判定基準

状態区分	現場の見た目例（写真）	視覚的チェックポイント（判断例）	現場でのアクション
状態Ⅲ (通常)		・建材の表面が安定しており、劣化が進んでいない。 ・剥離、亀裂、垂れ下がりが見られない。 ・保護材（キャンパス等）に破損がない。	✅異常なし そのまま現状写真を保存しシステム登録。
状態Ⅱ (部分損傷)		・表面の一部（局所的）に毛羽立ちや剥れが見られる。 ・1～2箇所に押り傷、凹み、ひび割れがある。 ・保温材の保護材が部分的に破れているが内部は軽微。	⚠️要注意 拡大写真を撮影し保存。計画的な補修対象として記録。
状態Ⅰ (著しい損傷)		・建材の全般にわたり表面が荒れ、大きく剥離している。 ・繊維の垂れ下がりや、床・灰出し口への粉じん落下がある。 ・下地が露出しており飛散のおそれがある。	🚨緊急対応 即時部屋を立ち入り制限し、環境対策課へ即電話連絡！

※掲載画像は検討用のイメージです。

SECTION 03

解決策②

工事依頼・発注担当者向けチェックリスト

工事依頼・発注担当者向けチェックリスト（案）

市有施設工事依頼・発注担当者向けアスベスト対策チェックリスト

工案件名

発注日

確認者

最終確認日

【重要】

アスベスト管理台帳はあくまで参考情報です。全てのアスベスト建材を100%網羅しているわけではなく、未登録のアスベストが存在する可能性があります。そのため、台帳を鵜呑みにせず、事業者による事前の現地調査と「台帳との照合」を必ず徹底してください。

フェーズ	チェック	確認事項	ポイント・対応内容（★必須キーワード）
フェーズ1 発注準備	☐	アスベスト管理台帳の確認	工事対象施設・対象箇所にアスベスト使用の記録（有無や種類）があるか確認する。
	☐	既存設計図書等の確認	竣工図や過去の改修履歴、過去のアスベスト調査報告書等を確認し、建材情報を把握する。
	☐	費用・工期の見込み	アスベスト有りの場合、十分な事前調査費用、除去・処分費用、および対策にかかる工期を設計に反映させる。
フェーズ2 発注・契約時	☐	管理台帳情報の伝達	アスベスト管理台帳の記録（使用箇所・建材・レベル等）を事業者に明確に伝える。
	☐	既存設計図書等の貸与	フェーズ1で確認した設計図書等を事業者に渡し、事前調査に役立ててもらう。
	☐	緊急連絡体制の周知	有事（飛散の疑い、予期せぬアスベストの発見等）の際の発注者側連絡先を事前に伝え、体制を確立する。
フェーズ3 事前調査結果の【照合】	☐	書面・データでの結果報告	事業者から事前調査結果の説明を受け、報告書（書面またはデータ）を受領したか。
	☐	【最重要】管理台帳との照合	事業者の調査結果と市の管理台帳を突き合わせる。台帳で「有」なのに調査結果で「無」（見落とし疑い）、台帳で「無」なのに調査結果で「有」（未把握の発見）となっていないか確認。
	☐	行政への報告確認	事業者が労働基準監督署および札幌市（環境局）へ事前調査結果の報告を行っているか確認する。
フェーズ4 施工計画書の確認	☐	レベル1・レベル2の対策	★「隔離養生」「負圧（ふあつ）」「集じん・排気装置」「前室（ぜんしつ）」が計画に含まれているか。
	☐	レベル3の対策	★「原形のまま」「手ばらし（破砕・切断しない）」「湿潤化」が計画に含まれているか。
	☐	【全レベル共通】作業区画・安全	★「標識・掲示（アスベスト作業中の看板）」「保護具（防じんマスク・保護衣）」の使用が明記されているか。
フェーズ5 工事完了時	☐	完了報告の受領	事業者から作業完了報告書（書面またはデータ）を受領したか。
	☐	対策実施の証拠（写真）確認	提出された作業写真等を見て、レベルに応じた対策（隔離養生、手ばらし、湿潤化等）が実際に計画通り行われていたか確認する。
	☐	適正処分（マニフェスト）	マニフェスト（産業廃棄物管理票）の写し等により、
	☐	アスベスト管理台帳の	

POINT

①【「台帳との照合」で事故防止】

事前調査結果と台帳の不一致をチェックし、見落としや未把握建材の事故を未然に防止。

②【二重チェック体制の強化】

「負圧隔離」「手ばらし」等の必須キーワードで、施工計画の妥当性を確実に確認。

③【発注～完了まで漏れなく管理】

情報伝達・緊急時ルール・写真・マニフェスト確認まで、発注者責務をステップ順に履行。

※掲載画像は検討用のイメージです。

まとめ：市有施設の安全管理と確実な法令遵守に向けて

実務支援ツールの拡充により、現場の迅速・的確な対応と組織的なリスク管理を同時に実現します

導入による期待効果

✔ 点検精度の向上と作業の形骸化防止

「ビジュアル点検ガイド」を活用し、現場での判断を支援し、わずかな劣化も見落とさず迅速に対応。

🛡️ 発注者責任の確実な履行と事故リスク低減

工事依頼・発注者向けチェックリストを活用し、事業者の調査結果と「アスベスト管理台帳」の照合手順等をわかりやすく整理。発注（工事依頼）部署が迅速かつ的確に確認作業が行えるようサポートし、安全な工事発注を後押する。

今後の推進ロードマップ

STEP1

実務支援ツールの全庁配布・周知

「ビジュアル点検ガイド」および「発注者向けチェックリスト」を配布・運用説明

STEP2

台帳照合の運用徹底

工事発注時の台帳照合ルール等を定着させる。

STEP3

運用フィードバックと継続的改善

現場の課題や相談内容を反映し、ガイドライン等を随時更新